



サイクル・エイド事業

2019 年度 事業報告書



自転車がつなぐ国際交流の輪 カンボジア

公益社団法人 アジア協会アジア友の会



この事業は、競輪の補助金を受けて実施しました
<http://ringring-keirin.jp>

《目次》

1. 事業の概要	1
2. 公益法人 アジア協会アジア友の会について	1
3. 2019年度事業報告	2
(1) 自転車の寄贈	2
(2) 事業推進のための広報活動の実施	6
(3) 国際交流プログラム	8
(4) 事業の成果と意義	9
◆サイクル・エイド事業 写真	10
【資料】	
サイクル・エイド支援会議 規約	18
サイクル・エイド支援会議 委員名簿	19
サイクル・エイド事業の経過	20
サイクル・エイド事業実績の推移	21

1. 事業の概要

「放置自転車を再生し、世界の子どもたちに贈ろう！」を合言葉に誕生したサイクル・エイドは、放置自転車を府内市町村の協力のもと、修理、再生し、海外の子どもたちに贈る事業である。

大阪府内の放置自転車のうち、約半数は引き取り手がないために大きな社会問題、環境問題となっている。一方、アジアやアフリカでは学校の数で十分でないため、長時間歩いて学校に通うか、遠すぎるために通学できない子どもたちが数多くいる。

こうした子どもに自転車を贈ることで、教育環境の向上などに寄与し、国際交流の絆を深めることをこの事業の目的とする。放置自転車を修理、再生し、リユースの好循環によって、大阪府内の環境負荷を軽減し、資源循環型社会に向けて地球環境に優しい自転車の活用を促進することを目指す。

2005 年度より、本会が事務局として事業を実施。大阪府等がメンバーとなったサイクル・エイド支援会議を設置し、事業を円滑に進めていくようサポートしている。

(参考：資料「サイクル・エイド支援会議規約」
「サイクル・エイド支援会議委員名簿」)

2. 公益社団法人アジア協会アジア友の会について

公益社団法人アジア協会アジア友の会は、アジアに暮らす人々のネットワークを通じて「貧困なきアジア共同体」の形成を目指す、国際民間協力団体（NGO-Non Governmental Organization）である。生命にとって最も大切な水、飲料水の欠乏が深刻なアジアに井戸を贈る運動として 1979 年に発足した。

現在、それぞれの地域に見合った活動をよりきめ細かに行うために、アジア 18 ヶ国 69 ヶ所にある現地提携団体とネットワークを形成し、その中央事務所を大阪にしている。

アジアの人々との「理解と協力と連帯」を目指して、安全な飲料水（井戸）供給のほか、植林、教育、生活向上などの様々な自立開発協力事業、各国ボランティア団体の育成、国際交流活動（ワークキャンプ等）の推進、国際理解教育、また地球の自然環境保全活動を主たる事業として活動している。



3. 2019 年度事業報告

(1) 自転車の寄贈

◆自転車の提供 計 720 台

放置自転車を収集するために、府内各市町村へ協力の呼びかけを実施。今年度は下記の 7 ヶ所から協力を得ることができた。回収された自転車は各市で選別、修理、再生後に泉大津市にある堺泉北港へ運搬され、海上輸送された。

◆府内協力市及び台数

堺市 200 台、八尾市 80 台、泉佐野市 100 台、大阪市 100 台、泉大津市 50 台、高石市 50 台、東大阪市 140 台

今年度は 11 月にカンボジアに 370 台、12 月にタイに 350 台、合計 720 台の自転車が寄贈された。事業開始以来、アジア、アフリカの 10 カ国に合計 32,150 台の自転車と 2 台の車椅子を贈ることができた。

タイ	350 台
----	-------

タイに贈られた自転車は、ナン県ウィエンサー郡を中心に子ども達の通学に加えコミュニティワーカー、医療従事者の巡回、貧しい農民、環境保全の活動に従事する人々に手渡され、有効に活用されている。

地域では事業を支えるためのネットワークが構築され、自転車の修理・メンテナンスをおこない、受益者達が安全に長く自転車を活用できるよう、サポート体制がつくられている。また、自転車が手渡される前に、受益者には安全講習をおこなわれ、メンテナンスも含め事故のないよう、指導がおこなわれた。

遠方から学校に通う子ども達にとって、就学継続のために自転車は非常に大きな助けとなっている。また、貧しい農民達にとって自転車は貴重な移動・運搬手段となり、効率よく仕事を進めることができるようになった。今回の寄贈をきっかけに、NGO、地方行政、村人、学校の先生、保護者、地元有力者等による協力体制が形成され、ナン県以外の県とも連携しあいながら自転車を有効に活用していくためのネットワークが広がってきている。また、地域環境を保全していくために、サイクルシティとして今後も人と環境に優しい自転車を通じて地域の生活改善に取り組んでいく。

1 月 23 日～26 日には国際交流プログラムがおこなわれ、地域との連携、自転車の有効活用について様々な意見交換がおこなわれた。

※注 1

◆タイ・アジア友の会=TAFS (Thai Asian Friendship Society)

会長：シリニー・シリフォンポン氏 事務局長：ニラン・チャンタ氏

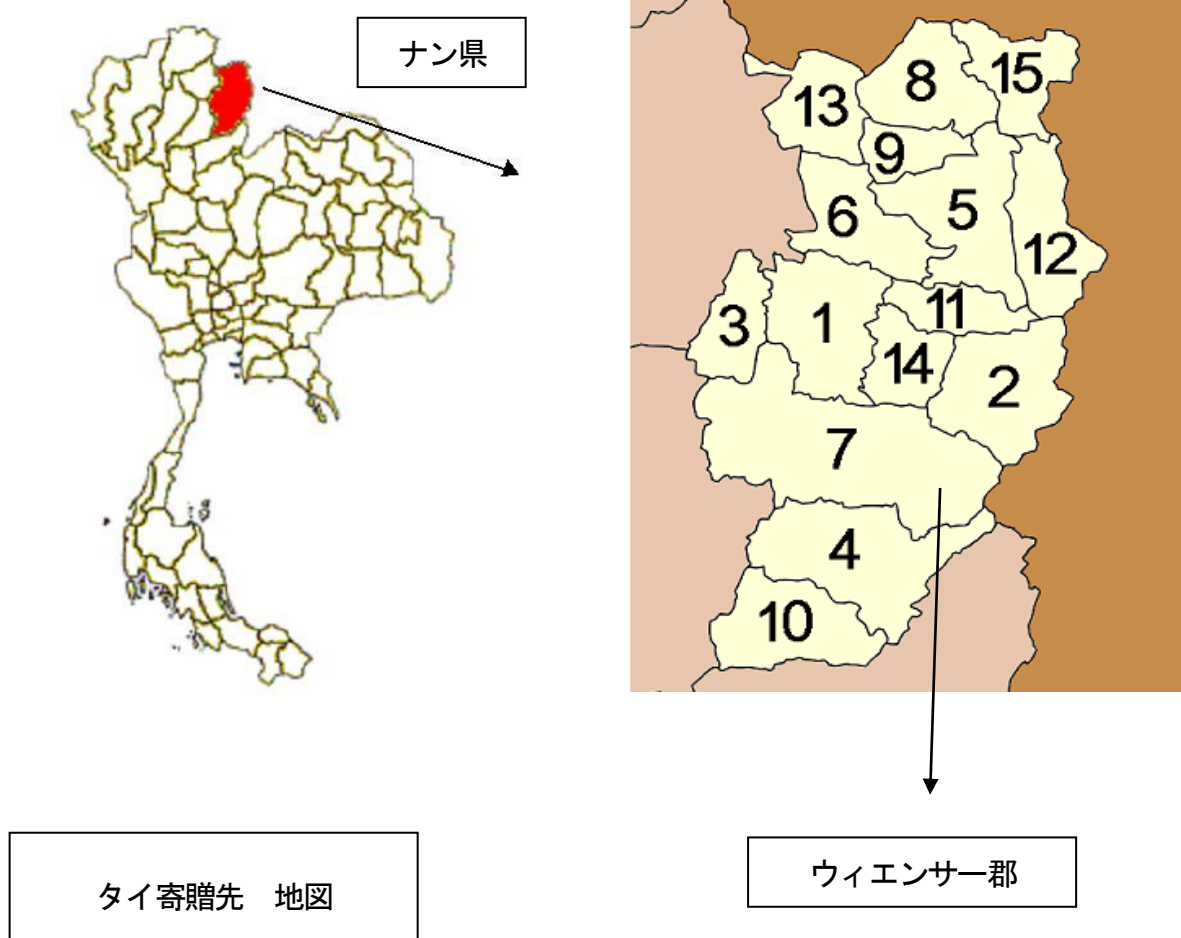
所在地：タイ

活動範囲：タイ国全域 基本的目標：貧しい人々の生活改善と教育支援

【沿革】タイで最も貧しい 10 県の一つであるナン県出身のニラン・チャンタ氏が、北部タイの窮状を支援するため、1994 年に発足。バンコクに事務所をおき、ナン県、チェンマイ県、ランプーン県、チェンライ県、ランパーン県、ノンタブリ県に各部会を持つ。部会と相互に協力しながらトイレや給水タンクの建設、学校や寄宿舎の建設を通じて、貧農の子ども達の教育支援、農村生活改善、国際交流等を行っている。

平成 17 年度よりサイクル・エイド事業を通して、地域の環境教育、自然環境保全に積極的に取り組んでいる。

【活動】農村生活改善、教育支援、国際交流、環境保全等



カンボジアに贈られた自転車は、孤児院や遠方から学校に通う子ども達や先生、地域のコミュニティワーカーや自転車を必要としている農民達に寄贈され、通学や仕事のために活用されている。

自転車の利用で地域の農民達が効率よい生活環境に変えていくことにより、女性の社会進出や生活向上へつながっている。また、勉強を続けたいが、家庭の経済的状況のため毎日の通学や進学をあきらめていた小・中・高校生の子供達に寄贈され、毎日安全に通学し、継続して教育を受けられるようになった。自転車を受け取った子ども達や家族はとても喜び、大切に自転車のメンテナンスをおこない、またより熱心に勉強や仕事に取り組むようになってきている。

自転車の寄贈は、公平により必要とされている人々に贈れるよう、政府、NGO、村の組織等で協力体制をとりながら、話し合いによってきめられている。今年度はカンダル州サン地区のプレックアルベン村やソンサオス村等で必要としている人々に寄贈された。受益者の決定については現地提携団体と村のリーダーが各家庭を訪問し決定された。まだ、多くの希望者が待っており、事業の継続が求められている。

この事業を通して、国際協力・交流に実践的に参画していく市民が増え、経験を積み重ねることで、今後国際社会で活躍・貢献できる人材育成につながっている。

2月20日～25日には国際交流プログラムがおこなわれ、日本から参加した学生による日本文化の紹介や環境保全、衛生管理等についてプログラムがおこなわれた。また、自転車の有効活用や子ども達の教育環境について様々な意見交換がおこなわれた。

※注2

◆クメール・アジア友の会＝KAFS (Khmer Asian Friendship Society)

会 長：セン・リム・ネウ氏（内閣官房事務次官）

所在地：カンボジア・プノンペン

活動地域：タケオ州、コンポンチュナン州、コンポンスプー州、カンダル州周辺

基本的目標：国家復興に向けた農村開発事業を通じての自立支援

【沿革】KAFSは1994年にカンボジアにおけるアジア協会アジア友の会の提携団体として発足。事務局長のロン・チョーン氏が外務次官ウン・シアン氏（当時）の推薦で、インドにおいて開催されたアジア国際ネットワークセミナーに参加したのがきっかけとなり、設立に至った。

【活動】井戸建設、教育支援、少額貸付、牛の銀行、グリーンスカウト運動等

カンボジア寄贈先 地図



首都プノンペン市

カンダル州

（２）事業推進のための広報活動の実施

① 事業 PR 用パネル・パンフレットの活用

事業の説明や写真を載せたパネルやパンフレットを活用し、イベント等で広く一般への広報活動をおこなった。

② 公益社団法人 アジア協会アジア友の会 HP による情報発信

<https://jafs.or.jp/action/cycle-aid/>

大阪府内協力市町村による情報発信

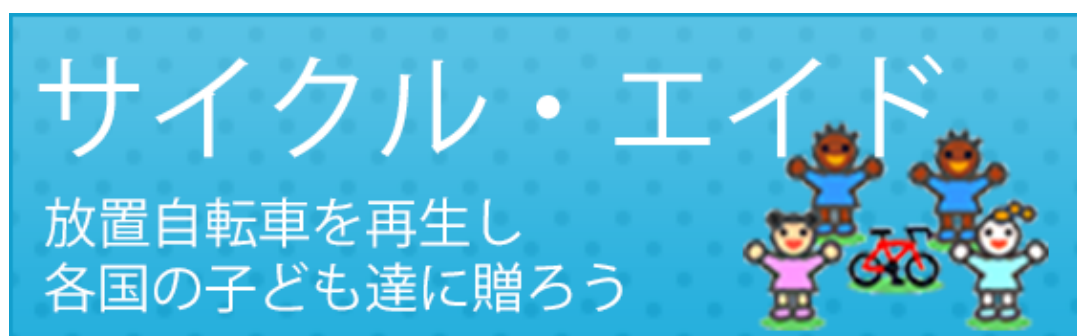
③ 広報媒体による情報発信

JAFS 機関紙「アジアネット 141 号」に掲載し、協力者をはじめ様々なプログラムで配布し、活動について紹介した。

④ 各種イベントとの連携、企業への協賛金依頼

大阪府自転車軽自動車商業協同組合からは修理キットの無償提供、港までの運搬のご協力をいただいた。

さらに下記イベントにおいてサイクル・エイド事業の活動紹介を行い、募金活動、協力の呼びかけ等を実施した。



（３）サイクル・エイド関連国内プログラム

◆ サイクル・エイド支援会議開催・意見交換・事業報告会

日程：2019年6月14日（金） 場所：大阪府咲洲庁舎

参加者：11名

内容：寄贈先での自転車利用状況や活用方法について報告会をおこなった。現地で自転車を必要としている村の状況や子ども達を取り囲む環境や日本と寄贈国の国際交流についてより深く知ってもらうことができた。また、この事業から派生して環境保全の取り組みや、福祉環境の改善、地域の他の事業への協力体制も徐々に強まってきていることから、事業を継続しておこなっていくこととなった。

◆ 泉大津フェニックス野外コンサート

日程：2019年8月31日（土）、

9月1日（日）、9月7日（土）、8日（日）14日（土）、15日（日）

場所：泉大津フェニックス

主催：泉大津フェニックス夏フェス 19 実行委員会事務局

来場者数：合計 約 100,000 人

内容：泉大津フェニックスが誕生した新しい町「夕凧町」は、空と海、そして全面芝生という心地よい空間で野外コンサート等各種イベントが催されている。そこで RUSH BALL2019、OTODAMA18'-'19、PARASITE DEJAVU が開催され、多くの音楽ファンを魅了。コンサート主催者の多大なる協力の下、会場内ブースでサイクル・エイド事業の活動紹介とチャリティ出展をおこなうことができ、海上輸送への協力を得ることができた。特に若い世代に事業を広報でき、リデュース・リユース・リサイクルについて意識してもらうことができた。

◆第 45 回四條畷市民の集い

日程：2019年10月27日（日） 場所：四條畷市

主催：市民憲章推進協議会

内容：サイクル・エイド事業の広報活動として展示と活動紹介、チャリティ出展をおこない、海上輸送への協力を得ることができた。四條畷市民に放置自転車の現状や、資源を再生してご協力いただいている国際交流について知ってもらうことができた。また、子どもや家族連れが多く来場し、事業に興味を持ってもらうことができた。

◆国際交流プログラム

【第 36 回土と水と緑の学校】

日程：2019 年 8 月 5 日（月）～10 日（土）

場所：新宮市

内容：子どもたちの自然環境教育プログラムにタイより参加。大自然での生活体験を通じ、自然の成り立ちや不思議を知り、人間を含む生態系の営み、自然保護を学び、未来を担う子ども達により豊かな心を育てる環境教育や地域環境保全等について意見交換をおこなった。

【タイ 国際交流プログラム】

日程：2020 年 1 月 23 日（木）～26 日（日）

場所：タイ ナン県 ／参加者：約 100 名

内容：自転車寄贈先であるナン県の農村地域で自転車贈呈式典がおこなわれ、行政・学校（教師・保護者・生徒）・農民等の村人達、自転車協会を対象に、現地提携団体とともに本事業の目的・目指すところ・事業内容等の紹介、説明をおこなった。様々な分野の協力者と意見交換をおこなうことで、今後の事業の必要性や取り組みについて理解が深まった。市民によるパッピーバイクネットワークがつくられ、安全で効果的な自転車利用についてサポート体制が整えられた。また、地球や地域の環境保全について意見交換では次世代のために協力体制を組み、継続した活動をおこなっていくことを確認した。

【カンボジア 国際交流プログラム】

日程：2020 年 2 月 20 日（木）～25 日（火）

場所：カンボジア カンダル州 ／参加者：約 200 名

内容：自転車寄贈先であるカンダル州の孤児院や村々、学等で自転車贈呈式典をおこない行政・教師・保護者・村のリーダー・孤児院スタッフ・農民等を対象に、現地提携団体とともに本事業の目的・目指すところ・事業内容等の紹介、説明をおこなった。

自転車を必要とする子どもたちの通学環境や村での生活の様子を知ることが出来た。また、地元の協力者と意見交換をおこなうことで、今後の事業の必要性や進め方や取り組みについて話し合うことができた。また環境にも優しい自転車を活用することで、地球環境保全への意識を高め、同じ地球市民としての視点を持ち、互いに協力しあう国際交流の推進活動を拡げていくことが期待される。自転車を通じて、日本と各国の国際交流が活発になり、また、

事業を継続することで人と人の絆が深まり、草の根の理解と協力の輪と協力の輪が広がってきている。近畿大学国際学部の学生達が中心となって企画した国際交流プログラムでは事業の説明と共に日本の文化の紹介等もおこない、共に学び合い友情を育む場となった。さらに自転車寄贈先の村にホームステイし、自転車を贈られた子ども達の家庭訪問やインタビューをおこない、自転車の利用状況について詳しく知ることができた。

（４）事業の成果と意義

アジアでは経済発展が進められる一歩で格差が広がり、厳しい貧困状況から脱却できずに一日一日生き抜くことに精一杯の人々が数多く存在する。毎日の食事也十分にとれない家庭においては、自分達で自転車を購入することは難しい。自転車を必要としている人々の住む地域はまだ数多くあり、順番を待っている状況にある。贈られた自転車によって、それまで不可能だった通学や仕事の効率化、生活の改善を可能にし、受益者達が自立への第一歩を踏み出し、将来をより良いものにかえていくことができるようになった。そのことが地域社会福祉環境の底上げとなり、また自転車を地域の共有財産とし有効に活用することで、地域住民が互いに協力しながら地域社会を創造していくことにつながっている。事業を通じてネットワークができて地域共同体の結束が強まり、地域の他の問題解決に対する協力体制もより強固になってきている。さらに地球環境保全への意識を高め問題解決に向けて行動していくことで、国境を越えて同じ地球市民としての視点を持ち、互いに協力しあう国際交流の推進活動を広げていくことが期待される。自転車を通じて、日本と各国の国際交流が活発になり、人と人の絆が深まることによって、草の根の理解と協力の輪が広がることが期待される。

寄贈先ではNGO、地方行政、村人、学校の先生、保護者、地元有力者、自転車協会等が協力し合うことで、町全体をサイクルシティとして様々な方面から改善に取り組んでいる。自転車道や駐輪場所もつくられ、安全に自転車を活用できるよう地域全体で仕組みづくりや環境保全運動が進められている。自転車寄贈先の村の人々は自分の住む村から出たこともない人も多く、また日本に対してもあまり知らず、また良い印象を持っていない人もいるが、この事業を通じて「日本」をより深く知り、友情・親しみが芽生え、草の根の国際交流を促進している。今年度は近畿大学の国際学部と連携し、学生も日本国内および海外においての事業の推進に参画し活動した。様々な世代のより多くのボランティアが事業に関わり進めることで、人々の善意の輪が広がり、地域社会・国際社会のために将来にわたって貢献できる人材が育成され、リーダーシップを発揮していくことが期待される。



タイ 事業の紹介とともに環境保全への取り組みについて説明



タイ 自転車贈呈式典に集まる受益者の子ども達とメンバー



タイ 自転車協会のメンバーから安全な自転車の利用方法についてお話



タイ 子ども達による事業のためのチャリティコンサート



カンボジア 自転車と共に贈られたTシャツを着る孤児院の子ども達



カンボジア 事業紹介と共に環境問題について説明



カンボジア 孤児院での自転車贈呈式



カンボジア ウイルス対策のための安全な手洗いについて紹介



カンボジア 自転車寄贈先であるホームステイ先の村の様子



カンボジア 村でおこなわれた自転車とTシャツ贈呈式



カンボジア 国際交流プログラム 教室で子ども達と交流



カンボジア 国際交流プログラム 夢について描く



カンボジア 学校の先生と子ども達の教育について意見交換



カンボジア 自転車贈呈式では JKA 補助事業であることを日本語と英語で表記



カンボジア
贈られたTシャツを着る
孤児院の子ども達



環境への取り組みとして再利用可能なアルミ製のストロー

サイクル・エイド支援会議規約

(名称)

第1条 本会は、サイクル・エイド支援会議という。

(目的)

第2条 本会は、大阪府内に放置されている自転車等を再生し、これをアジア・アフリカをはじめ、自転車が必要とする子ども達等に贈る、社団法人アジア協会アジア友の会が実施するサイクル・エイド事業が、円滑に推進できるよう助言及び支援を行うことを目的とする。

(組織)

第3条 本会は、前条に掲げる目的に賛同し、推進する関係団体（以下「構成団体」という）をもって組織する。

(委員)

第4条 構成団体を代表する者をもって委員とする。
ただし、委員は代理をもって充てることができる。

(委員の任期)

第5条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(役員)

第6条 1 本会に、次の役員を置く。

- (1) 委員長 1名
- (2) 副委員長 1名
- (3) 事務局長 1名

2 委員長及び副委員長は、委員の中から互選により選任する。

第7条 1 委員長は、本会を代表し、会務を統括する。

2 副委員長は、委員長を補佐し委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代行する。

3 事務局長は、社団法人アジア協会アジア友の会の事務局長をあて、本会の事務を司る。

(顧問)

第8条 本会に、顧問を置くことができる。

(専門部会)

第9条 本会に、次の専門部会を置く。

- (1) 資金調達部会
- (2) 物資調達部会

(会議)

第10条 必要に応じ、会議を開催する。

附則 この規約は平成17年4月1日から施行する。
この規約は平成21年3月25日から施行する。（一部改正）

サイクル・エイド支援会議委員名簿

令和元年 6 月

〔委員長〕

吉村 洋文

大阪府知事

〔副委員長〕

萩尾 千里

公益社団法人 アジア協会アジア友の会会長

〔委員〕

近藤 博宣

大阪商工会議所 常務理事兼事務局長

澤井 宏文

大阪府市長会 会長（松原市長）

中山 行男

大阪府自転車軽自動車商業協同組合 理事長

永藤 英機

堺市長

野澤 隆寛

一般財団法人 自転車産業振興協会 会長

堀井 良殷

公益財団法人 関西・大阪 21 世紀協会 理事長

松井 一郎

大阪市長

山崎 一

一般社団法人 自転車協会理事長

吉川 秀隆

公益財団法人 大阪国際交流財団 理事長

和田 吉衛

大阪府町村長会 会長（忠岡町長）

〔事務局長〕

村上 公彦

公益社団法人 アジア協会アジア友の会 事務局長

〔事務局：（公社）アジア協会アジア友の会内〕

〔顧問〕

アンドリュース ヤング

元アトランタ市長

下中 融

元熊取町長

永山 一郎

特定医療法人三和会 会長

向江 昇

元泉佐野市長

* 委員。顧問は五十音順

サイクル・エイド事業の経過

- 平成 9 年 4 月：アトランタ市の元市長、元米国国連大使であるアンドリュー・ヤング大使の呼びかけに応え、大阪府、関係市等で委員を構成するサイクル・エイド委員会を発足。
- 平成 15 年 8 月：第 11 回サイクル・エイド委員会で、今後の運営のあり方について検討を行うことを決定。
- 平成 16 年 8 月：第 12 回サイクル・エイド委員会において、平成 17 年度からサイクル・エイド事業を、社団法人アジア協会アジア友の会が主体となって実施することを了承。
- 平成 17 年 3 月：サイクル・エイド支援会議準備会議開催。
- 平成 17 年 4 月：社団法人アジア協会アジア友の会が実施主体となるサイクル・エイド事業がスタート。また、サイクル・エイド事業の円滑な推進を図るための支援を行う「サイクル・エイド支援会議」が発足。

サイクル・エイド事業実績の推移(単位:台)

2019年3月31日

年度(職)	9~16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	計
西暦	1997-2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	
寄贈台数	15,706	1890	2155	2167	1550	1890	680	410	740	701	731	703	750	634	723	720	32,150
寄贈先	南アフリカ	11,073															11,073
	フィリピン	1,080	579	1090	807	880	510	350		350		350	353	375			6,724
	スリランカ	1,150	807														1,957
	カンボジア	683	504	725	680						381	350		284	373	370	4,350
	タンザニア	1,180															1,180
	イスラエル	340															340
	タイ			340	340	670	380	330	370	350	701			375	350	350	5,906
	ベトナム				340												340
	マダガスカル	200															200
	東日本被災地							40	40								80

年度(職)	9~16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	計
西暦	1997-2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	
協力市寄贈数	16,556	1040	2155	2167	1550	1890	680	410	740	701	731	703	750	634	723	720	32,150
提供市	堺市	7,057	440	935	940	320	360	140	80	210	200	200	204	200	200	200	11,686
	泉佐野市	2,832	100	300	200	200	200						100	100	110	100	4,142
	八尾市	2,325		200	220	280	510	200	100	270	200	200	209	200	106	100	5,120
	松原市	1,280	200	150	150	110	200										2,090
	阪南市	542	120	120	120	150	120	120	100	120	101	100	100	100			1,913
	吹田市	500	100	45													645
	大阪市	612								100	100	100	100	100	119	100	1,231
	泉大津市	300		100	101	130	200	100	50	100	100	100	90	50	50	55	1,526
	藤井寺市	299															299
	泉南市	51	80	155	156												442
	箕面市	285															285
	柏原市	250															250
	高石市	30		150	200	120	180	80	30						50	50	840
	貝塚市	100															100
	豊中市	50															50
	寝屋川市	50			80	240	150										520
	和泉市	20															20
	四條畷市						30	40	40		30						140
	東大阪市														89	140	89
	府公園課													78			78
	民間	3									1						4
	保管						-20	10	10								0
	スクラップ	-30					-10										-40

* 2018年度高石市より車椅子2台寄贈



令和 2 (2020) 年 6 月発行

編集・発行 公益社団法人 アジア協会アジア友の会 (JAFS)

〒550-0002 大阪市西区江戸堀 1-2-14 肥後橋官報ビル 5F

TEL : 06-6444-0587 FAX : 06-6444-0581

ホームページ : <https://jafs.or.jp> E - メール : asia@jafs.or.jp